

# A B r i e f N o t e   N o .   2 1 4

発行日：2012年7月23日

## 南イタリアの旅

八千代市   松尾 昌泰

今年6月に南イタリアの観光ツアーに参加した。イタリアには14年前に行ったが、ローマ、フィレンチェ、ベネツェア、ミラノなどの都市だったので、今回は南イタリアを選んだ。

気温は関東よりかなり高く、太陽ギラギラの真夏だったが、湿度が少ないので日陰は涼しく風は気持ちよかった。雨はほとんど降らず、畑も山もカラカラで、日本の緑濃い田畑や山林とは全く異なった風景であった。

シチリア島はヨーロッパのリゾート地で、外国人観光客が多く、アジア系は日本人観光客1～2グループに会った程度だった。

イタリアと云えば、盗難、スリ、置き引きが多い要注意国の1つであり、しかも、シチリア島はマフィアの影があるとかで、身構えて行ったが、実際には不審な人の行き来はほとんどなく、安心して旅ができた。

観光した場所は、シチリア島のパレルモ、アグリジェント、タオルミーナ、そしてイタリア本土のアルバロベッコ、マテーラ、カプリ島の青の洞窟、アマルフィー海岸などであった。



## 1. アグリジェントの「神殿の谷」 （古代ギリシャ神殿の遺産）

アグリジェントはシチリア島南岸の丘陵斜面にある都市で、小高い丘には有名な「神殿の谷」があり、そこには20余りの神殿の遺跡が残っている。

紀元前520年～440年頃に建てられたもので、歩いているとギリシャで観光しているような錯覚におちいる。中でもアグリジェントのシンボルと言われている「コンコルディア神殿」（写真参照）は、ギリシャ・アテネのパルテノン神殿に次いで保存状態が良い「ギリシャ神殿」と云われている。

イタリアでは昔から地震がおおく、これらの神殿の太い柱は、一本石ではなく、崩壊しにくく何層にも積み重ね合わせられて作られている。

シチリア島にエトナ山という活火山が、今でも噴煙を上げ続けている。3300メートル級で、富士山のように姿はよく裾野は広範に広がっている。



アグリジェントの「神殿の谷」にあるコンコルディア神殿

## 2. タオルミーナの古代ギリシャ劇場と紺碧のリゾート海岸

観光バスでシチリア島の東岸に向かい、白い噴煙を上げているエトナ山を見ながら、270 kmをひたすら走り、タオルミーナに着いた。

タオルミーナは風光明媚なリゾート地で、町の中心は海岸沿いから切り立った高台（206m）にあり、見下ろせば、限りなく青く透明なイオニア海、背後にはエトナ山を望むことができる。シチリア随一の絶景と言われている。

このタオルミーナも、シチリア島の他の都市と同様に古代ギリシャおよびローマの支配下に

あり、当時の神殿や遺跡が残されている。

ギリシャ時代の紀元前3世紀に造られたという「ギリシャ劇場」は、ローマ時代の1世紀末～3世紀にかけて、闘技場用に改造され、今でも、コンサートやオペラなどに利用されている。（だからか、舞台の後ろに大スクリーンが設置されている。写真参照）

このギリシャ劇場は一番見晴らしのいい丘をくり貫いて造られただけあって、さすがに眺めは素晴らしかった。

若し、観光ツアーを一時中断できるものなら、ここでのんびりしたら、気持ちが良いのと思った。



タオルミーナにある古代ギリシャ劇場

背後に地中海と白い噴煙を出しているエトナ山の裾野（右から白く流れている筋は噴煙）

あの有名な映画「グラン・ブルー」のロケ地だったとのことで、その舞台となった「イソラ・ベッラ島」も観光名所になっている。だからか、世界的にもよく知られたリゾート地であり、メインストリートを行きかう人々には、現地のイタリア人ではなく、ほとんどが観光客だった。

### 3. 世界遺産アルベロベッロ

四国より一回り大きな三角形をしたシチリア島から観光バスごとフェリーに乗り、イタリア本土に渡り、イタリアの「長靴の踵」に位置する町アルベロベッロに着いた。

この距離は 550 km強、7 時間のバスの長旅で、観光バスの最後尾の席にゆったり座ったり、

時には横になったりであった。大型バスに、たったツアーの参加者 13 名だけなので、これも許された。

この町には、キノコのような円錐形のとんがり屋根をした住宅、トゥルツリが約 1,000 軒ある。



アルベロベッロのとんがり屋根の「トゥルツリ」群

一つの屋根に平らな石灰石を何層にも積み重ねており、当初は白いが年数がたちと黒くなっている。80 cm（厚いのは 2 m とか）の壁は石を積み上げて白い石灰を塗りなおしている。

壁は真っ白で、屋根は黒く、このトゥルツリがひしめき合っているのは、おとぎの国のような雰囲気である。

強烈な太陽の下で、このような構造の家は、夏は涼しく冬は暖かいそうで、土地開墾のため入ってきた農民が住むのに工夫して作ったものだった。

#### 4. カプリ島の「青の洞窟」

ナポリのホテルを朝早く発ち、ナポリ港からフェリーでカプリ島に向かった（午前中の方が波の状態が良く「青の洞窟」に入れる可能性が多いから）。カプリ島はティレニア海に浮かぶ島で、約 10 平方キロメートルの小さな島だが、風光明媚な土地として知られ、イタリアにおける観光地の 1 つとなっている。

カプリ島ではモーターボートに乗り換え洞窟近くの海上で、波に揺られながら、小さな手漕ぎボートに乗り移り、「青の洞窟」に入った。

この「青の洞窟」は断崖絶壁の波打ち際に半ば水中に埋もれている海蝕洞で、入り口は極端に狭く、くぐる際には乗客は小舟のへさきより下に頭も身もかがめて、やっと通れる。

ガイドの説明では、今でも沈下が進んでおり、入り口が次第に下がってきているそうである。内側に入ると、数十メートルの広い空間が広がっていた。洞窟の入口は、水面の上は手漕ぎボートがやっと入れるぐらいしかなく小さいが、水面下は大きく開いている。



カプリ島の「青の洞窟」

なぜ、青の洞窟は青いのか？ 青の洞窟の海底には、白い砂地があり、太陽の光が射し込むと、砂に光が水面へ反射され、洞窟内にはライトアップされたような『青の世界』が広がるそうです。洞窟の入口は東側を向いており、午前中はライトブルーで神秘的に輝き、太陽が傾く午後になるにつれ、ダークブルーで幻想的になるとか。

神秘的な雰囲気であるが、手漕ぎボートは数分ほどのですぐ外に出てしまった。1人でも多くの観光客をさばく為だろうが、あっと云う間なので、あつけなく残念だった。ただこれだけのことだが、人気ある観光スポットとなっており、観光客がわんさと押しかけてくる。イタリアには、この青の洞窟に似た洞窟が幾つかあるので、そこまでしなくてもと思う。

##### 5. イタリアの原子力発電は？ 日本は？

バスの窓から、大規模の太陽光発電施設が数か所、また、風力発電所も5～6か所を見かけた。日本では、福島原発事故により、やっと原発依存度を下げようとしているが、イタリアの原発はどうなっているのだろうか調べてみた。

イタリアは、エネルギー資源は少なく輸入に頼っている。すでに 1965 年時点には 3 カ所の原子力発電所が稼動していたが、1986 年のチェルノブイリ事故の影響を受け、翌年直ちに「脱原発」を決定し、1990 年までにすべての 4 基と燃料加工やサイクル施設を閉鎖している。

しかし、電力は不足しており、フランス、スイス、オーストリアやスロベニアから輸入している。



イタリアのところどころにある風力発電群

2003 年 6 月、猛暑による需要増と、渇水による水力発電供給量の減少で供給不足となり、全国的な輪番停電で対処していたが、9 月にはフランス、スイス、オーストリアとを結ぶ高圧送電線が断絶し、ほぼ全土が停電してしまった。

この為、2004 年にはイタリアへの電力供給を目的に、スロバキア、ルーマニアなど発電所へ投資している。2009 年にはフランスの協力で原発新設を目論んだが、昨年の福島事故で再び、国民投票によりこれまで通りの「脱原発」に回帰している。多少ブレてはいるが、脱原発については 20 年以上の経過がある

一方、福島原発事故を受け、ドイツは直ちに「脱原発」に大転換したかに見えた。メルケル首相は事故発生からわずか 3 日後、老朽化した原発 7 基を 3 カ月停止し、全原発の安全検査を徹底するように命じた。さらにドイツ政府は「2020 年までに全原発停止」を決めた。

この迅速さには驚いたが、ドイツはもともと 12 年前の 2000 年に脱原発を決めている。一時、2009 年秋の連立政権で脱原発ムードが減退していたが、福島原発事故の発生により、脱原発の高まる世論（大規模デモなど）をくみ取って、再び脱原発の期限を早めた。ドイツの脱原発

をめぐる国民議論は、「既に10年を超える下地があったからだ」と言える。

日本では、原爆の被爆国ながら、脱原発の国民的議論は今迄無く、福島事故によりやっと検討が始まった。「〇〇年までに全原発停止する。その為にプロセスをどうするか」ではなく、原発依存度をどの程度に下げるかの三択のシナリオを作った。だが、3択のうち2つは、現状の原発の継続あるいは原発新設のシナリオであり、世論をくみ取っていない。国民をないがしろにした選択肢だと思う。7月～8月にかけて「国民的議論」を行って決定するという。たった数か月では決して満足な国民的議論が出来るとは思わないが、ブレない脱原発の国になるよう願っている。

以上